

平成30年度

鹿児島学習定着度調査結果報告書

(平成31年1月調査)

～調査結果を生かした授業改善の手引～



平成31年3月
鹿児島県教育委員会

目 次

I	調査の概要	1
II	地区別の平均通過率	3
III	特集	4
IV	本調査の活用の仕方	7
V	各教科の結果	
1	各教科の全体平均通過率	9
2	各教科の結果概要	10
3	各教科の平均通過率と受検者の正答数分布（県全体）	
(1)	小学校	
ア	国語	12
イ	社会	13
ウ	算数	14
エ	理科	15
(2)	中学校	
ア	国語	16
イ	社会	18
ウ	数学	20
エ	理科	22
オ	英語	24
4	各設問の分類と平均通過率	
(1)	小学校	
ア	国語	26
イ	社会	27
ウ	算数	28
エ	理科	29
(2)	中学校	
ア	国語	30
イ	社会	32
ウ	数学	34
エ	理科	36
オ	英語	38
5	県全体の小問別の正答数，誤答数，無解答数	40
6	各教科の授業改善の視点	
(1)	国語	45
(2)	社会	46
(3)	算数・数学	47
(4)	理科	48
(5)	英語	49
VI	児童生徒質問紙の結果概要	50
VII	学校質問紙の結果概要	55

I 調査の概要

1 趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識及び技能や思考力、判断力、表現力等に関する学力状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。

また、各学校に全県的な傾向との比較・分析などを通じて、自校の課題を明確にさせ、問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るとともに、児童生徒の学力向上を図る。

2 調査の対象学年、学級等

(1) 県内すべての公立小学校第5学年、中学校第1，2学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし、複式学級を有する学校においては、履修していない内容を調査から除外して実施する。なお、小・中学校における特別支援学級の児童生徒については、該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。

(2) 特別支援学校においては、該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学校種	学年	実施校	調査児童生徒数
小学校(小学部)	第5学年	491校	13,637人
中学校(中学部)	第1学年	212校	12,423人
	第2学年	218校	12,413人

※ 本調査に関わる調査問題、報告書等において、義務教育学校の第7学年を中学校第1学年、義務教育学校の第8学年を中学校第2学年、義務教育学校の前期課程を小学校、後期課程を中学校と読み替えることとする。

※ 調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

※ 調査児童生徒数は1教科でも学力調査を実施した児童生徒の総数を示す。各教科の調査人数は、欠席等により異なる。

3 調査の内容

学力調査

主として「基礎・基本」に関する内容と、主として「思考・表現」に関する内容で出題し、調査対象教科の学力の定着状況（当該学年の12月終了程度までを範囲とする）について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校(小学部)】 第5学年 …… 国語，社会，算数，理科

【中学校(中学部)】 第1，2学年 …… 国語，社会，数学，理科，英語

学習状況調査

質問紙により、調査対象者の学習に関する意識や学び方などの学習状況について調査する。

学校質問紙調査

学力向上の取組、校内研修の状況、家庭・地域との連携等について調査する。

4 調査の実施時間

学力調査

小学校(小学部) 45分(調査票の配布・説明等5分，調査時間40分)

中学校(中学部) 50分(調査票の配布・説明等5分，調査時間45分)

学習状況調査

小・中学校(小・中学部) 15分(調査票の配布・説明等5分，調査時間10分)

5 調査の実施日

学力調査 平成31年1月16日(水)・17日(木)

学習状況調査 平成31年1月16日(水)～18日(金)

6 調査の採点及び結果の集計・分析

(1) 各学校は、自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い、当該市町村教育委員会へ報告する。また、集計結果をかごしま学力向上支援Webシステムに登録する。自校の調査結果については、保護者に対して説明責任を果たすと同時に、かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら、今後の指導方法等の改善に生かす。

(2) 各市町村教育委員会は、管下の学校の調査結果を集計し、県教育委員会へ報告する。自市町村の調査結果については、かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら、自市町村の学力向上や指導法改善への取組に生かす。

(3) 県教育委員会は、調査結果を集計・分析し、県全体の学力の定着状況について公表するとともに、指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し、各学校に配布することにより、各学校の学力向上への取組を支援する。

7 学力調査の問題内容

鹿児島学習定着度調査は、次の二つの内容で出題している。

- ① 主として「基礎・基本」に関する問題
- ② 主として「思考・表現」に関する問題

②の問題は、次の内容を問うものとする。

教科名	番号	主として「思考・表現」に関する問題の内容
国語	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	身近な資料を用いて、表現の仕方や文章の特徴を捉え、自分の表現に役立てることができるようにする問題
	3	複数の情報を関連付け、それをもとに自分の考えを論理的に書くことができるようにする問題
社会	1	社会的事象の特徴や背景・原因等について、自分の考えを筋道立てて説明する問題
	2	提示された資料を関連付けたり、比較したりして読み取ったことをもとに、社会的事象について説明する問題
	3	歴史的事象の相互の関係を判断したり、社会的事象について正しく説明しているものを判断したりする問題（選択肢による出題）
算数・数学	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	示された課題解決の過程を、新たな課題に活用して解決する問題
	3	課題解決の方法や判断の根拠などを言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道立てて説明する問題
理科	1	観察、実験の結果（事実、データ）から結論を考察する問題
	2	原理、法則を他の身近な現象に当てはめて説明する問題
	3	視覚的に実感しにくい現象をモデルで説明する問題
英語	1	「聞くこと」においては、聞き取った英語を基に、英文を完成させたり、英語の質問文に英語で答えたりする問題
	2	「読むこと」においては、文と文のつながりや段落と段落の関係、内容に合う英文選択などを問う問題
	3	「書くこと」においては、対話やまとまりのある文章における流れや文と文のつながりに留意し、適切な英文を書く問題

○ 各教科の「各設問の分類と平均通過率」の「思考・表現」の欄に番号が記載されている。

II 地区別の平均通過率

(1) 小学校第5学年

別		県全体	鹿市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	基礎・基本	64.8%	65.3%	65.0%	64.8%	65.5%	65.5%	61.8%	65.4%	65.7%
	思考・表現	47.5%	49.6%	49.0%	45.6%	48.7%	47.0%	42.4%	51.4%	45.3%
	全体	60.1%	61.1%	60.6%	59.6%	61.0%	60.5%	56.5%	61.6%	60.2%
社会	基礎・基本	79.8%	80.4%	78.7%	82.4%	80.0%	79.7%	76.5%	80.0%	81.2%
	思考・表現	58.1%	57.7%	59.5%	60.9%	59.6%	57.3%	54.9%	61.7%	61.4%
	全体	72.9%	73.2%	72.6%	75.5%	73.5%	72.5%	69.6%	74.2%	74.8%
算数	基礎・基本	78.0%	77.6%	79.7%	78.6%	78.5%	78.9%	75.6%	80.4%	80.1%
	思考・表現	62.3%	62.5%	62.9%	63.0%	63.7%	62.4%	58.6%	66.9%	62.9%
	全体	72.8%	72.6%	74.1%	73.4%	73.6%	73.4%	69.9%	75.9%	74.3%
理科	基礎・基本	59.7%	59.6%	62.7%	58.7%	61.0%	61.6%	56.0%	62.4%	59.9%
	思考・表現	47.8%	49.0%	49.7%	47.2%	47.9%	48.4%	43.9%	48.3%	46.9%
	全体	54.6%	55.0%	57.1%	53.8%	55.4%	55.9%	50.8%	56.4%	54.3%

(2) 中学校第1学年

別		県全体	鹿市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	基礎・基本	63.2%	65.7%	65.1%	60.3%	60.4%	62.9%	60.8%	63.7%	61.3%
	思考・表現	58.5%	61.2%	61.0%	54.7%	58.3%	57.2%	55.5%	62.2%	54.6%
	全体	61.9%	64.4%	63.9%	58.7%	59.8%	61.3%	59.3%	63.3%	59.3%
社会	基礎・基本	68.8%	70.8%	68.5%	64.7%	67.2%	70.3%	64.6%	69.8%	70.6%
	思考・表現	46.5%	47.7%	46.8%	49.1%	42.4%	47.7%	42.7%	42.5%	49.8%
	全体	62.2%	63.9%	62.1%	60.1%	59.8%	63.6%	58.1%	61.7%	64.4%
数学	基礎・基本	68.0%	68.6%	70.5%	68.3%	68.0%	68.9%	64.2%	68.5%	67.4%
	思考・表現	39.0%	41.6%	42.5%	36.9%	36.7%	39.9%	35.7%	36.3%	33.0%
	全体	59.7%	60.9%	62.5%	59.3%	59.1%	60.6%	56.1%	59.3%	57.6%
理科	基礎・基本	62.2%	64.7%	61.2%	60.4%	62.3%	62.0%	58.0%	63.1%	60.6%
	思考・表現	53.9%	55.5%	55.6%	53.3%	52.3%	52.5%	50.1%	57.8%	56.3%
	全体	59.2%	61.4%	59.2%	57.9%	58.7%	58.6%	55.1%	61.2%	59.1%
英語	基礎・基本	76.5%	77.3%	77.9%	76.1%	76.6%	78.1%	72.8%	76.8%	75.8%
	思考・表現	67.9%	68.2%	70.6%	66.2%	68.9%	68.6%	64.7%	68.7%	68.9%
	全体	73.3%	73.9%	75.2%	72.3%	73.7%	74.5%	69.8%	73.8%	73.2%

(3) 中学校第2学年

別		県全体	鹿市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	基礎・基本	71.0%	72.9%	72.3%	70.3%	68.6%	71.4%	68.5%	70.9%	68.1%
	思考・表現	58.4%	60.0%	59.1%	56.5%	55.1%	56.3%	59.3%	68.9%	54.5%
	全体	67.6%	69.4%	68.7%	66.6%	65.0%	67.4%	66.0%	70.3%	64.4%
社会	基礎・基本	54.9%	55.9%	57.0%	54.3%	51.3%	54.6%	52.9%	60.4%	56.0%
	思考・表現	42.6%	42.7%	43.8%	45.9%	40.8%	41.8%	38.8%	43.2%	47.1%
	全体	51.2%	52.0%	53.1%	51.8%	48.2%	50.8%	48.7%	55.3%	53.3%
数学	基礎・基本	65.1%	68.4%	67.9%	62.8%	63.4%	63.3%	63.1%	59.4%	60.5%
	思考・表現	54.1%	58.8%	56.0%	53.4%	51.3%	52.9%	49.3%	53.7%	45.4%
	全体	60.8%	64.6%	63.2%	59.1%	58.6%	59.2%	57.7%	57.2%	54.5%
理科	基礎・基本	55.9%	58.4%	57.5%	54.7%	54.5%	55.3%	52.2%	59.3%	52.2%
	思考・表現	39.0%	41.3%	39.4%	38.3%	38.4%	37.6%	35.2%	43.1%	36.8%
	全体	50.3%	52.7%	51.5%	49.2%	49.1%	49.4%	46.5%	53.9%	47.1%
英語	基礎・基本	58.3%	61.7%	62.2%	56.0%	57.3%	58.0%	53.7%	53.6%	53.4%
	思考・表現	41.4%	43.4%	44.2%	40.4%	40.8%	39.0%	39.3%	42.6%	38.1%
	全体	51.7%	54.6%	55.2%	49.9%	50.9%	50.6%	48.1%	49.3%	47.5%

Ⅲ 特集

特集 1

学力向上のための特徴ある取組（市町村教育委員会）

確かな学力の定着を図るために、各市町村教育委員会では様々な取組がなされています。特徴ある取組をまとめてみましたので、参考にして学校、地域や家庭の実態に即した学力向上のための取組を一層推進してください。

研修等、教職員の指導法改善の取組

- 学力向上推進会議の開催（年数回）
 - ・ 指導法改善のポイントの設定や学力向上リーフレットの作成
 - ・ 重点事項等の周知、見届け
 - ・ 各学校は、年間を見通した学力向上グランドデザインの作成
- 研究授業及び授業研究の実施
 - ・ 中学校区ごとにもち回りで研究授業等を実施
 - ・ 小・中・高の連携を図り、校種を越えた公開研究、授業研究の実施
- 授業と連動した家庭学習の取組
 - ・ 予習・授業・復習のサイクルの確立についてリーフレットを作成配布
 - ・ 授業の振り返りの徹底
 - ・ 宿題の内容と授業が連動する工夫
 - ・ 宿題の内容と量を考えた家庭学習の時間の確保
- 全国学力・学習状況調査を活用した指導法改善
 - ・ 全教員で調査問題を解き、教科の設問内容と形式について共通理解
 - ・ 誤答分析及び誤答率や無解答率の高い問題の抽出など児童生徒の課題の把握
 - ・ 誤答や無解答の問題を、できるまで徹底して復習
- 平成31年度全国学力・学習状況調査英語調査に向けた研修会
 - ・ 研修用DVDを活用した、パフォーマンステストの演習実施
 - ・ 全国学力・学習状況調査英語調査における予備調査（話すこと）の演習実施



演習問題等への取組

- かがしま学力向上支援Webシステムの活用
 - ・ Webシステムの問題を全教科印刷し、対象児童生徒全員に配布
 - ・ Webシステムの演習問題を、「今週の一問」、「今月の一問」として各学校へ配布
- 県教育委員会から配布された演習問題CDの活用
 - ・ データを利用して、定期考査、単元テスト、家庭学習用の課題への利用促進
 - ・ 学習した内容が定着するまで、繰り返し指導と見届きの徹底を指導
- 諸学力調査問題の活用
 - ・ 全国学力・学習状況調査、鹿児島学習定着度調査、公立高校入学者選抜学力検査等から課題となっている問題を抽出し、重点復習単位として小・中学校へ周知徹底



補充指導、個別指導の徹底など

- 個人カルテの作成・活用を図るなど、児童生徒一人一人がどこまでできるようになったか、どこでつまづいているのか見取ることを指導
- 習熟の程度に応じて、個に応じた問題を活用した補充指導、個別指導を行うよう指導
- 定期考査前の部活動停止期間を利用した、補充指導、個別指導の取組徹底
- PTAと連携を図り、家庭学習と連携した取組の大切さについてリーフレットを作成
- 一斉の家庭学習強調週間を設定した、家庭学習の習慣化の徹底

特集 2

2学期実施した重点課題を、鹿児島学習定着度調査に同一(類似)問題として出題したが、改善されず !!

県教委としては、今回の鹿児島学習定着度調査の問題に全学年で実施した重点課題(単元別評価問題活用)を出題したが、改善が図られていない(数値が下がっている教科もある)。

すなわち、重点課題を実施したものの、児童生徒に定着させるまで、繰り返し、個別指導や補充指導等を行っていないと思われる。

中1・社会 「世界各地の人々の生活と環境」

2学期重点課題
中1 Q2
平均正答率(県)
55.7

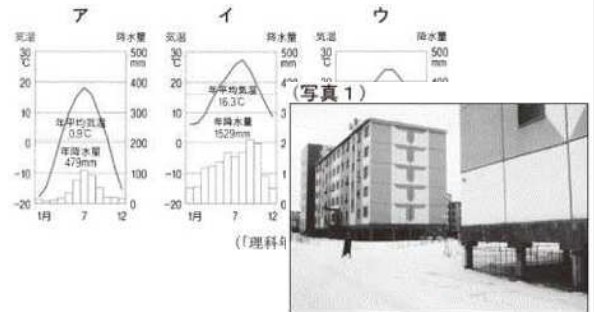
鹿児島学習定着度調査
2 (3)
平均通過率(県)
50.2

自校の結果

2学期重点課題
平均正答率

鹿児島学習定着度調査
平均通過率

(3) 下のア～ウの気温と降水量のグラフは、地図中の●の三つの都市のものである。イルターツク(ロシア)のグラフはどれか。あてはまるものをア～ウから一つ選び、記号で答えよ。また、写真1のように、イルターツクでは多くの建物が高床になっている。なぜ、このように高床の建物になっているのか説明せよ。



中1・理科 「身のまわりの物質とその性質」

2学期重点課題
中1 Q5
平均正答率(県)
43.4

鹿児島学習定着度調査
4 (1)~(3)
平均通過率(県)
57.3

自校の結果

2学期重点課題
平均正答率

鹿児島学習定着度調査
平均通過率

(4) 正子さんは気体の性質を調べるために、図1のような装置をつくり、表のような組み合わせで気体を発生させました。次の各問いに答えなさい。

	活栓つきろうと	三角フラスコ
ア	オキシドール	二酸化マンガン
イ	うすい塩酸	石灰石
ウ	うすい塩酸	鉄
エ	うすい塩酸	貝がら
オ	うすい塩酸	亜鉛

中2・数学 「比例・反比例」

2学期重点課題
中2 Q11
平均正答率(県)
74.8

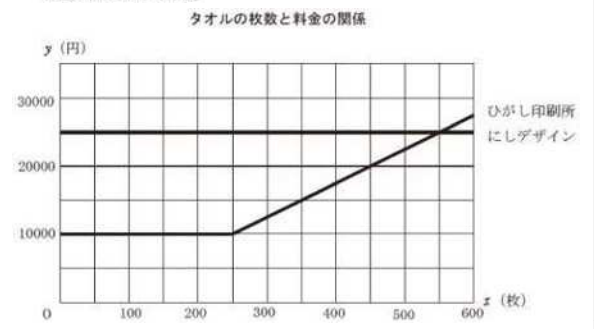
鹿児島学習定着度調査
7 1~3
平均通過率(県)
69.5

自校の結果

2学期重点課題
平均正答率

鹿児島学習定着度調査
平均通過率

(7) ある学校では、創立記念式で配る記念タオルをつくることになった。3つの店のうち、どこか1つの店に記念タオルの依頼をしたいと考えている。3つの店のタオルの枚数と料金は下のとおりである。



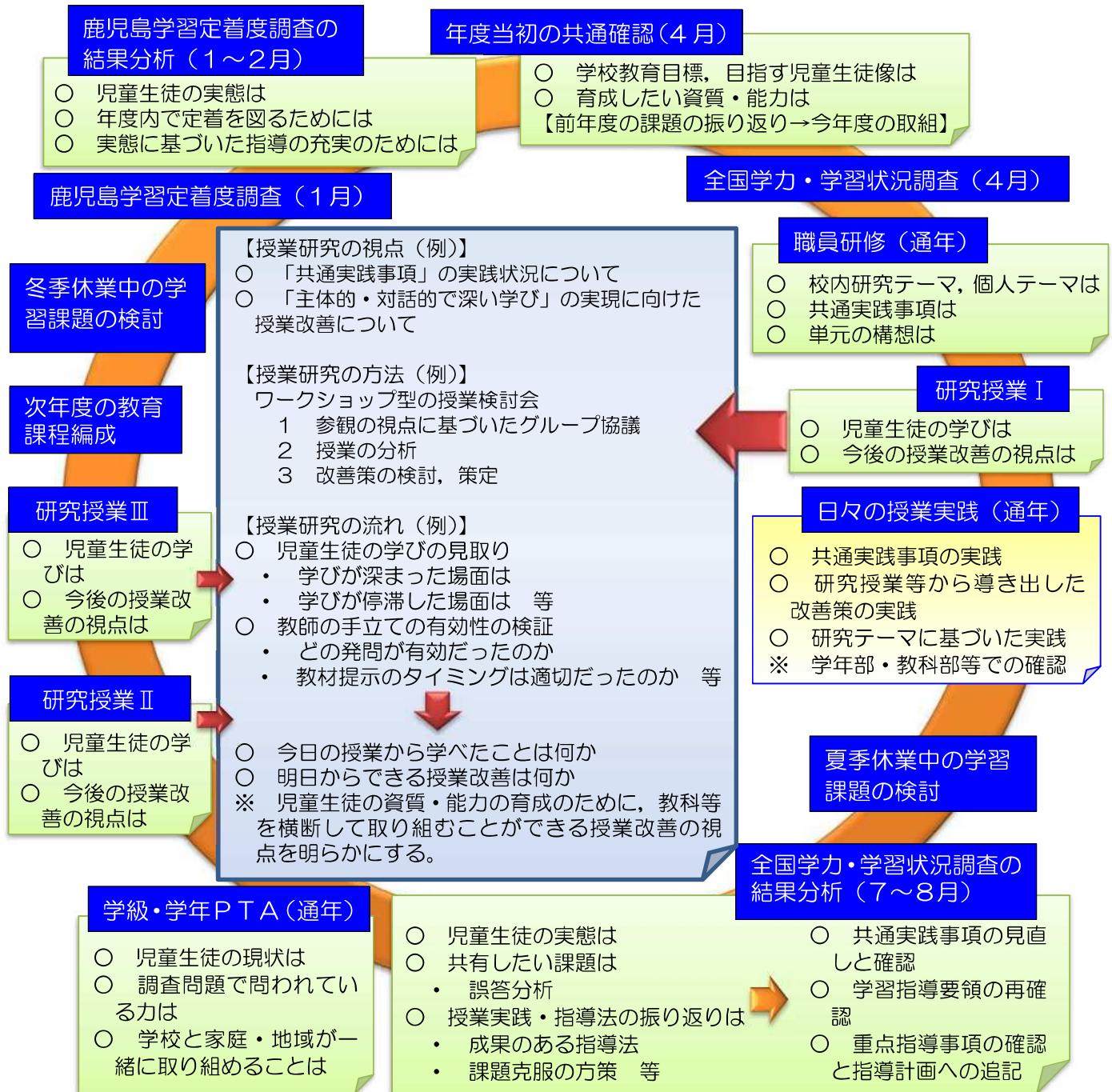
〈参考〉

組織で取り組む学力向上のサイクル

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めるためには、学力向上を目指した授業づくりや校内研修の充実を図り、教師が学年や教科を超えて組織的に学力向上のサイクルを意識して取り組むことが大切です。

それぞれの時期に応じて学校全体で行う学力向上の取組を参考例として示します。自校の実態に合わせた「本校の学力向上のサイクル」を作成してみましょう。

【学校全体で取り組む学力向上のサイクル（例）】



IV 本調査の活用の仕方

- (1) 各教科で出題されている問題の内容や平均通過率について、領域や単元毎等の平均通過率や無解答率の状況等を確認して学校全体で情報共有や対策を検討する。
- (2) 自校の平均通過率の高かった問題や低かった問題、県平均通過率との差が大きかった問題等について、成果や課題を明らかにする。その上で、これまでの指導法を振り返りつつ、今後どのような指導法が成果を更に伸ばし、課題克服につながるのか、校内で情報を共有する。
- (3) 本調査は単に該当する学年の状況のみを問うものではないため、校内で指導法を共有する際には、学年・教科を超えて全体で行う。特に、学校全体で課題として共有することについては、各教科等の年間指導計画の中に重点事項としての取組内容等を朱書きする。

1 自校結果の把握

- 全体として各教科バランスよく学力が定着しているのかを確認するため、領域や単元毎の通過率や無解答率の状況を県全体の平均通過率も踏まえて分析を行う。
- 各教科の単元毎の学力が定着しているのか確認するため、小問毎の平均通過率を確認する。
「4 各設問の分類と平均通過率」(p.26～)には、自校結果を記入するための欄を設けているので、中間まとめで配布した表計算ファイルに自校の通過率を入れたり、校内研修等で各教員が記入したりして活用する。
- 自校結果の把握に当たっては、単に平均通過率だけの把握にとどまることなく、児童生徒の誤答傾向に着目し、分析していくことが、指導法改善につながる。

2 自校結果の活用

- 自校の結果についてその特徴を明らかにしたら、その要因を把握する。その上で、これまでの指導法を振り返りつつ、今後どのような指導法が成果を更に伸ばし、課題克服につながるのか、校内で情報を共有する。
- 成果の上がっている学校について、市町村教育委員会等と連携を図り、授業参観を行うなどして、その学校の取組を学び、児童生徒の実態に合わせて自校化する。
- 成果の上がっている取組については、学校全体で情報を共有し、これからも継続して学校全体で取り組む。
- 改善を要する取組については、その方法をできるだけ具体的に示す。また、その取組については、いつ、どの単元の中で指導するのか具体的に年間指導計画の中に朱書きして、今後の取組を行う。
- 改善策を策定する際には、併せて評価の計画も立てたり、確認のための再調査を実施したりするなどして、確実な定着を図る。
- 課題となっていることについては、当該単元での指導だけでなく、必要に応じて学年を超えて定着の確認をしたり、補充指導をしたりするなど学校全体（教科全体）での取組を行う。
- 学校全体の分析と同様に、児童生徒一人一人について調査結果からうかがえる児童生徒の実態を把握し、再指導を実施する。
- 「6 各教科の授業改善の視点」(p.45～)を参考にしたり、「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載されている評価問題を単元末等に活用し、学習の定着を確認したりすることも有効である。
- 学習状況についても児童生徒質問紙の結果を生かして、指導法の改善や学習習慣の確立に取り組む。

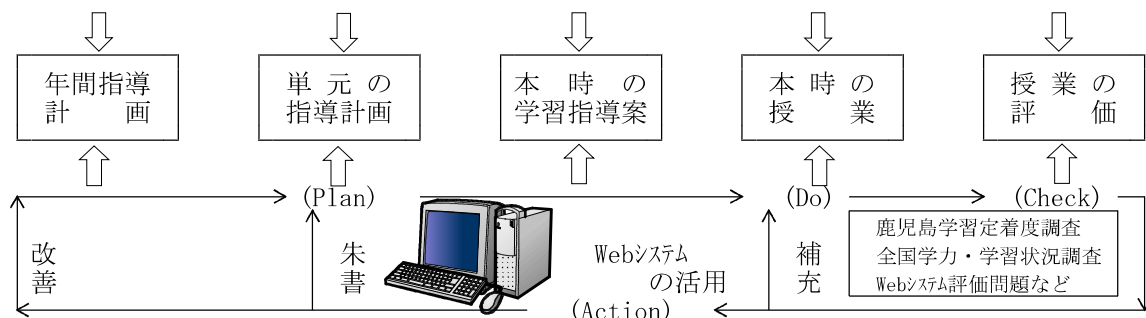
3 本調査結果を生かした年間指導計画例

社会科年間指導計画 第1学年			
○○中学校			
※ 指導計画に自校の平均通過率、県平均との差、指導の重点を朱書きしたもの。〔 〕は取組内容。			
月	単元名・時数	時数	学習項目及び主な学習活動
4	第1章 私たちの地球と世界の地域構成 (5)	1	① 地球、そして世界へ… ○ 世界の大陸と海洋の位置と名称を知り、地球を大観する。 ○ 地球儀などを使って、陸地と海洋の分布や面積比を確かめることができる。
		1	② 200近くの国々からなる世界 ○ 世界の主な国のうち、60か国程度の位置と名称を身に付ける。 ○ 地図帳を使って、世界各国の面積の大きい・小さいや、人口の多い・少ないを調べ、比較できる。
		1	③ 国名や国旗から世界をみると… ○ 世界の主な国々を国名・国旗の由来や国境線から捉え、その国の歴史や文化などの特色について関心をもつ。 ○ 地図帳のさくいんを使って国の位置を調べたり、さまざまな資料から国名・国旗の成り立ちを調べたりすることができる。
		1	④ 地球儀に引かれた線は… ○ 赤道や本初子午線、緯線や経線の意味を知り、日本の位置を捉える。 ○ 地球儀を使って、地球上の位置を緯度と経度によって示すことができる。 ※【H29定着度調査】【H30定着度調査】の課題：「時差」 53.1%(-6.9%) 66.8%(-3.2%)〔他国の緯度・経度の比較、位置の確認〕
		1	⑤ 地球儀から世界地図へ ○ 球体である地球を平面の世界地図に表す際に、面積・形・方位などのすべての要素を正しく描くことはできないことが理解できる。 ○ 地球儀や世界地図を活用しながら、さまざまな作業を通じて、投影図法による世界地図の特徴の差異について関心をもつ。 ※【H29定着度調査】【H30定着度調査】の課題：「各投影図法の長所と短所」 42.3%(-7.7%) 42.7%(-7.3%)〔投影図法の地図の理解、評価問題〕
5	第2章 人々の生活と環境 (8)	1	① 地域によって気候が変わる ○ 23ページの「世界の気候帯の分布」と、気温と降水量のグラフを活用し、世界の気候帯の分布を捉える。 ○ 大陸別の気候帯の分布について関心をもち、それぞれの気候帯の特徴を比較し表現することができる。 ※【H29定着度調査】【H30定着度調査】の課題：「気候帯の分布」 9.5%(-10.5%) 50.2%(-9.8%)〔雨温図の読み取り、評価問題〕

【指導計画見直しのサイクル】

よりよい授業を構想するためには、実践に基づいた指導計画を立てる必要がある。また、指導計画は授業を行った後に適切な評価を行うなどして、改善していかなければならない。そのためには、「計画(Plan)」（年間指導計画、単元の指導計画・評価計画、1単位時間の指導計画・評価規準）—「実施(Do)」（本時の授業）—「評価(Check)」（授業の評価）—「改善(Action)」（計画の見直し）のサイクルを下図のように繰り返しながら、絶えず見直し、改善していくことが大切である（評価の際に本調査の積極的な活用を図る）。

- ① 指導目標の深い理解（学習指導要領及び学習指導要領解説の熟読、学校教育目標の理解）
- ② 学校、児童生徒等の実態や課題の把握（各種学力調査、自校での評価資料）
- ③ ①、②を踏まえ、それを実現するための手法（教材研究、教材開発、指導法研究等）



（「平成30年度教職員のための研修の手引」 鹿児島県教育委員会 参照）

V 各教科の結果

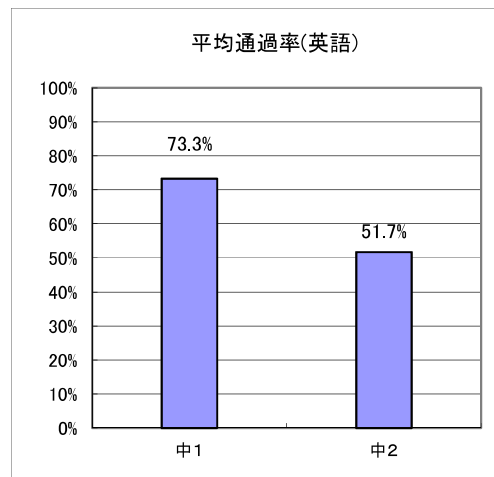
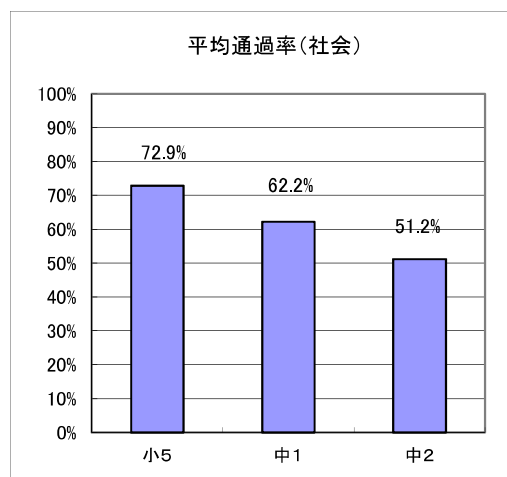
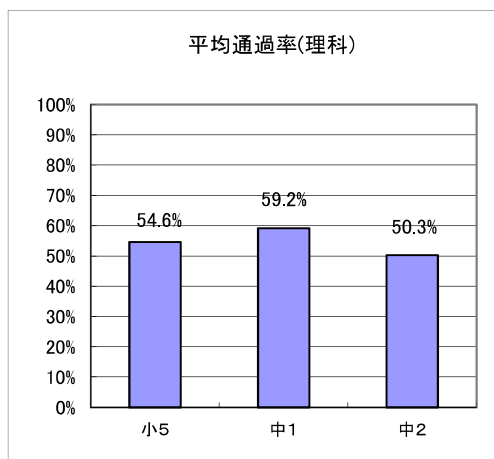
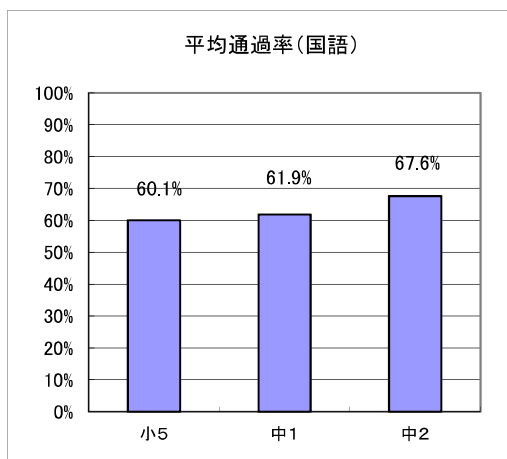
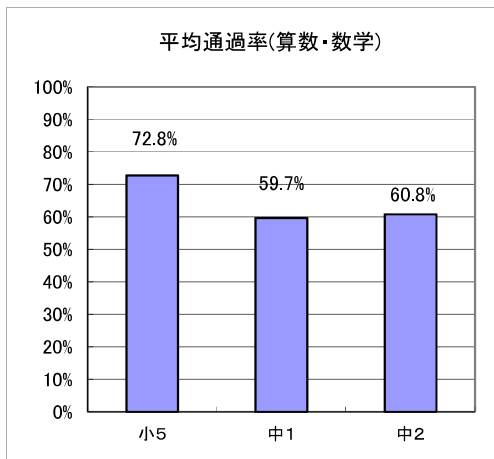
1 各教科の全体平均通過率

ここでは、教科ごとに調査実施学年の全体平均通過率を示しており、本県の総合的な学力の定着状況の概要を、教科・学年ごとにみることができる。

- (1) 各教科全体の問題数に対して、主として「基礎・基本」に関する問題を7割程度、主として「思考・表現」に関する問題を3割程度で出題した。

※ 新学習指導要領を踏まえ、「思考・表現」に関する力の育成を更に充実するため、各教科とも考えをまとめ表現する問題の質的な向上を図った。

- (2) 「基礎・基本」及び「思考・表現」の問題ともに、各教科・学年において改善の傾向も見られるものもあるが、依然として課題が継続しているものがある。



2 各教科の結果概要

- 「基礎・基本」の問題に関しては、表現された言葉や内容を正確に理解する力、表やグラフを読み取る力、観察器具の適切な使い方などで、基礎的・基本的な内容が定着していない様子が見られた。
- 「思考・表現」の問題に関しては、図、表、グラフ、資料等を関連付けたり、自分の考えを根拠を明らかにして記述したりする問題、習得した知識・技能を日常生活の場面で活用していく問題等について、通過率が低く、無解答率も高くなっている。
- 過去に課題となった内容について、追跡する問題を全教科合わせて74題出題した。6割程度の問題において通過率が上昇するなどの改善が見られるものの、課題が継続している問題もあり、更なる指導法改善の取組が必要である。

【国語】		基礎・基本	思考・表現	全体
	小5	64.8%	47.5%	60.1%
	中1	63.2%	58.5%	61.9%
	中2	71.0%	58.4%	67.6%

- 「基礎・基本」については、各学年とも、十分に定着しているとは言えない状況である。基礎的・基本的な事項について確実な定着が望まれる。昨年、初めて出題した読解力を問う問題については、小・中ともに通過率は向上しており、言葉に注意しながら読むことができるようになってきている。しかしながら、小5では、手紙の後付け、中1、2では、同音異義語や慣用句、言葉のきまりなどに、定着が不十分なところが見られた。
- 「思考・表現」については、目的や意図に沿って工夫された表現に関する問題について、課題が見られた。小学校では、自分の立場を明らかにして資料を活用しながら自分の考えをまとめることについて改善が図られている。中学校では、図表との関連を考え、効果的に表現する問題については、課題が残った。また、いずれの学年も複数の資料を基に自分の考えをまとめ、記述する問題では、無解答率が高くなっている。

【社会】

		基礎・基本	思考・表現	全体
	小5	79.8%	58.1%	72.9%
	中1	68.8%	46.5%	62.2%
	中2	54.9%	42.6%	51.2%

- 「基礎・基本」については、小5は概ね定着は図られているが、中1の地理的分野、中2の歴史的分野において定着が十分でない。特に、中1は国土の様子、気候帯の分布と植生や世界の諸地域に関する問題、中2は織田信長の全国統一、江戸時代の幕府の施策や国外との交易等に関する問題など、継続している課題が改善されていない。
- 「思考・表現」については、資料やグラフから読み取ったことをまとめたり、比較して分かったことなどを説明したりする問題に課題がある。どの学年も無解答率が10%を超える問題もあり、特に中学1・2年の歴史的分野において、その傾向が見られる。
また、中1は2学期重点課題として取り組んだ問題をそのままを出題したにも関わらず、通過率が上がっていない。定着が図られていない問題については、全児童生徒に定着するまで個別指導や補充指導をする必要がある。

【算数・数学】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	78.0%	62.3%	72.8%
中1	68.0%	39.0%	59.7%
中2	65.1%	54.1%	60.8%

- 「基礎・基本」については、小5では、概ね定着している状況である。しかし、倍の関係にある二つの数量を表す線分図を選択する問題に課題がある。中学校では、7割を超えず、十分に定着していない。中1では、全体に対する割合、展開図から組み立てた立体の求積、回転移動した図形、折り目の作図に課題がある。中2では、投影図の円錐の求積、比例・反比例の問題について課題が見られる。
- 「思考・表現」については、どの学年でも、事柄が成り立つ理由や思考の過程を数学的な表現を用いて説明する問題の通過率が低く、無解答率が高い。小5では、日常生活の事象を、グラフの特徴から複数の観点で考察する問題に課題がある。また、重点課題として出題した「単位量あたりの大きさ」の類似問題の平均通過率は、6割を超えているものの、課題実施時より低く、定着には至っていない。中1、中2では、日常生活や数学の場面における問題解決のために、複数の情報を関連付けたり、考察の対象を明確に捉えたりし、論理的に考察することに課題がある。中2の重点課題として出題した「グラフの読み取り」と同じ問題の平均通過率も、課題実施時より低く、定着の度合いを確認し、繰り返し取り組ませる必要がある。

【理科】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	59.7%	47.8%	54.6%
中1	62.2%	53.9%	59.2%
中2	55.9%	39.0%	50.3%

- 「基礎・基本」については、小5、中1、中2全て8割を下回っており、定着が図られていない。小5では、小3や小4で学習した内容の平均通過率が低い。追跡調査である水の三態変化については、湯気や沸騰させたときの泡が何か理解できていない。中1では2学期に各学校が取り組んだ「学力向上に関する重点課題」と同一問題、類題の平均通過率が低く、重点課題を使った既習事項の復習がなされていない。中2では追跡調査問題である圧力を求める問題や、実験の結果をグラフに書いて表現する問題の平均通過率が低く、課題がある。
- 「思考・表現」については、小5、中2は5割を下回っている。小5では、追跡問題である水溶液の様子をモデルで説明する問題の平均通過率は、前回を下回っている。中1でも、例年課題がある粒子領域の平均通過率が低く、改善がなされていない。中2では考察したことを文章で表現する問題や考察後の新たな疑問を表現する問題において平均通過率は低く、無解答率は高い。習得した知識及び技能を日常生活の場面で活用して思考していく問題について、全国学力・学習状況調査と同様、課題が継続している。

【英語】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	—	—	—
中1	76.5%	67.9%	73.3%
中2	58.3%	41.4%	51.7%

- 「基礎・基本」については、中1においては、概ね定着が図られているが、語順に留意し〔主語＋be動詞＋補語〕の文を作ることや適切な語を書き入れること、まとまりのある英文を読んで指示語の指す内容を答えることに課題がある。また、中2においても、対話の流れから判断し文脈に沿って適切な文を書くこと等に課題がある。
- 「思考・表現」については、中1においては、まとまりのある英文を読んで内容に関する質問に答えること等に引き続き課題が残る。中2においては、重点課題としていた「読むこと」のまとまりのある文を読んで大切な部分を正確に読み取る問題について、昨年度と同じ形の出題であったが平均通過率は下がっており、依然として課題が残る。また、全国学力・学習状況調査予備調査問題と類似した形式の問題を出題したが、聞き取った質問に対して自分の考えを書くことや、まとまりのある文章の概要や要点を答えることに課題がある。